

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービスekubo

支援プログラム（参考様式）

作成日

2024年

9月

29日

法人（事業所）理念		一人一人が世の中に役立つリーダーになれ					
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療ケアの安心安全は当たり前。5感フル刺激を意識しての支援、非日常の経験やイベントの提供をする</li> <li>・母がレスパイトができる更には社会で活躍できるようにしたい（児発も放デイも1日預かり）</li> </ul> うれしい預かりなど家族支援に力を入れている					
営業時間		10時	0分から	17時	0分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	疾患の理解を深め、受診時の結果、検査、内服等を聞き取り、資料として把握する。呼吸器の子供は常にモニターで数値の把握、聴診、視診等で健康状態の把握。洗腸、のを含めた排泄管理、肺音聴取し吸引、タッピング等気道クリアランス、排痰ケアなど全身管理を行う。また、呼吸器の子供は入浴支援を担い全身観察をする。体幹が弱い子供が多いためPTと協同で福祉用具や椅子の選定、ポジショニングを確認し側弯や呼吸障害を予防を行っている。保育園への移行が見込める子供は、保育士中心に排泄のしつけ、食事における礼儀作法や安全な食事姿勢の維持、スプーン、箸の使い方等、子供のレベル（格差が大きい）に応じて支援する					
	運動・感覚	個々の成長発達や日々の体調に合わせて、ポジショニングや介助方法、使用物品の調整を行い、より安楽に過ごせ拘縮や変形の予防に努める。呼吸器リハの対象児には胸郭ストレッチや肺痰ドレナージを行い、肺炎の発症軽減を目指す。基本動作、日常生活動作の獲得のため、バランスボールや踏み台、傾斜台を使用しての体幹筋トレーニングを行う。保育を通して手や足底の感覚入力を行う。					
	認知・行動	聴覚、視覚に障害があることが多い。補聴器や眼鏡の使用も自宅同様、デイでも活用して絵本の読み聞かせ、光や音を使ったプラネタリウムを行っている。触覚に関してはPTや保育士の考えを取り入れて触感遊びや感覚入力として手や足使って粘土やパン作りをしている。クッキングに関しては、味嗅覚も意識して嚥下のレベルは様々ではあるが注入も含めて試食する。重心児においては認知行動は難しい分野ではあるが、五感を刺激することを意識している。行動においては認知機能が低いいため、事故予防をまず優先して外傷や他害のないような環境づくりをメインに支援している。					
	言語コミュニケーション	言語の獲得が難しい子供がほとんど占めているためジェスチャーやハンドサインによるコミュニケーションを、支援場面で（例えばトイレ行きたい）取り入れている。またイラストカードを用いて指でさす練習を反復的に行い意思表示ができるよう支援している。発語を促すためにマスクをはずして口の動きをみせて発語を促す等は保育士中心に行っている。言語獲得、発語ができない子供は、支援者が常に話しかけること、表情やモニターの数値でしんどいのが気分が高揚しているのか、支援者が読み取り利用児にフィードバックをしコミュニケーションを図る。					
	人間関係社会性	支援者が利用児に離れることなく挨拶やしつけやお友達、対先生との関係性の構築を優しい言葉で伝えている。親以外のいろいろなサービス、人と関わりながら今後育つので、イベントや散歩を通じて地域にも出て、いろんな人とふれあうこと、集団生活を心がけている。地域にも医療ケア児の存在を理解してもらうように相互に働きかけている。（地域の方にも医療ケア児について事前に話をしている）。また、発語がでない分、手が出てしまったり物を投げて意思表示をする児には、しっかり叱り「痛い」「壊れる」のはいけないことを児に応じていろんな方法で伝えるようにしている。					
家族支援	医療ケア児を抱えた家族は、一人の時間は時間の確保も家事もままならずきょうだい児に関わる時間が確保しにくい。きょうだい児の多い家庭やメンタルケアが必要なご家族中心に家族支援を（きょうだい児の預かり、家事代行支援、母のメンタルケアとしてカラーセラピー等）を支援している。	移行支援	保育園や支援学校に移る際に支援学校等に向き連携や情報提供を行う。母にモニタリングをし就学や保育園移行に関しての困りごとやニーズを把握してそれに向けて練習や環境設定等を支援しスムーズに移行できるよう支援する				
地域支援・地域連携	保育所、学校、事業所、訪問サービス等積極的な寧な情報交換（会議や動画、電話、対面）連携している。特に松原市においてはほぼセルフプランのため相談支援員に代わり処々手続きや必要に応じて他サービスの紹介等も支援している	職員の質の向上	年間必須研修の他に職種の分野から一つ勉強会を実施してもらっている。急変研修は1.2か月に1回実施。また保育実習生を受け入れ指導する立場で学びを得ている。弊社の独自研修ではチームビルディングに力を入れて社長が講師となりに研修がなされている。				
主な行事等	重心児でも重度で感覚、知覚機能も低い子供が多いため、5感がフルで刺激できるもの、スタッフの職種やスキルを生かしたもの、心に残るもの（母に対して）を考えて創意工夫のもと提供。行事は遠足、クリスマス、ハロウィーン等によりハビリ要素を取り入れた制作やクッキング。ほかの事業所にはない発想とエンタメで経験したことない特別なものを提供することを大切にしている。母やきょうだい児への行事参加も促し家族支援としても活用している。家族会は開催し母への特別時間、父の特別時間（医療ケア児の父は母と違う問題を抱えている）を支援している。						

・きよ